

令和7年度 職員学校評価(学年末)集計

学校教育目標		重点目標		スクールミッション				
○未来に生きる知性を創造する生徒		(1)主体的、対話的で深い学びを通して、知識・技能及び社会で生きる力を育む		(1)地域唯一の公立高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通して、地域の未来を創っていく生徒の育成 (2)集団生活や特別活動等を通して、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成 (3)多様な進路希望に対応したキャリア教育を通して、希望する進路を主体的にデザインし、進路の実現に向かうことができる生徒の育成				
○世界に生きる徳性を涵養する生徒		(2)自己理解を深め、社会の有為な担い手となる進路実現に向けて、積極的に取り組む態度を育む						
○風雪に生きる心身を練成する生徒		(3)多様性を尊重し、他者と協働することにより道徳心や自律心、創造性を養うとともに、自己指導能力を育む						
		(4)心身の健康の保持増進に努めるとともに、自他の健康安全に貢献できる態度を育む						
		(5)地域の伝統や文化に融れ、地域の人達と融れ合うなかで、地域を理解・尊重する態度を育む						
領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	R7前期	R7学年末	自己評価	改善・充実の方策
教 育 活 動	学習指導	○主体的、対話的で深い学びと個別最適な学び、協働的な学びの充実	①ICTを活用し、生徒が互いに学び合う学習集団を形成するための指導実践	①classroomを適切に活用し、多様な意見や情報に触れる機会を設けることで、生徒の考えに広がりや深みが表れている。	2.9	3.0	B	・3年生の授業でクラスルームを1年間使用して授業を行ったが、「充電がない」「忘れた」という理由で授業の開始時間が大幅に遅れる事態が続いた。タブレットの保管や利用についての理解を深めて行く必要性を感じる ・基本的な計算を確立するために反復練習を強化する多患なかなかICTの活用までは至っていない ・図形等の単元は視覚からの学びの充実のため取り入れる必要がある ・意見・情報の共有の部分は取り組みができた。 ・毎時間のGoogleミートを効果良く活用するためのGoogleスライドの作成を充実させる。 ・ICT研修会を継続して実施しながらより効果的な活用法を改善に生かしたい。
			②授業における目標や資質・能力の周知と、生徒が主体的に学ぶ態度の育成	②目標や身につけさせたい資質・能力に沿ったリフレクション(振り返り)が生徒の主体性向上につながっている。	2.8	3.0	B	・単元の目標を明確にして振り返らせることで、学力定着につなげる ・振り返りを充実させる。 ・生徒のリフレクションをフィードバックする策を練る。 ・概ね実践できているので継続していく。
			③多様な生徒の実態に応じた授業実践(国数英は学び直しの工夫を含む)	③日常的な授業公開を授業改善に活かしている。	2.8	2.9	B	・基礎基本才定着を図るため反復練習の強化と解ける喜びの充実につなげる ・授業公開を行っていきたい。 ・朝の打ち合わせで、ICTミニ研修を増やし、互いに共有する。 ・授業改善や学習意欲の向上につなげることができた。
	キャリア指導	○自己理解の深化と社会で活躍する(通用する)ための資質の育成	①深い自己理解に基づく進路目標の確立に向けた支援	①生徒が自己理解を深めることで、進路目標の設定・見直しを行っている。	3.0	3.1	B	・生徒の進路目標に応じて個々にアドバイスを行いながら、授業内容が自分の進路にどのような影響があるか考えさせる授業展開を行う ・進路の取り組みが遅くならないように進路情報の充実を図り、進路選択幅を広げながら進路目標を立てさせる ・今後もさまざまな職種や校種の情報を取り入れていく。
			②社会人としての資質を養うための進路情報・体験・知識の提供	②適切な進路情報等を提供し、生徒が学ぶことや働くことの意義を実感できている。	3.0	3.3	B	・2年生で各種検定取得を目指し、3年生ではビジネスマナーを学ばせることで、社会人としての資質を養うことに重点を置く ・外部講師による講話の内容を吟味し、次年度へ引き継いでいく。 ・今後もさまざまな職種や校種の情報を取り入れていく。
			③探究活動等を中心とした進路実現への積極的な支援	③進路実現に向けて、生徒が探究的に取り組んでいる。	3.2	3.1	B	・探究を通じて自己理解や他者との協力及び交流からコミュニケーション力や特性を学び、進路実現に向けて体験活動の充実を図る ・地学協働探究を継続していく。
	生徒指導	○自己指導能力の獲得に向けた自己有用感の向上と道徳心・自律心、創造性の育成	①生徒の特性に応じた適切な支援とコーチング・スキルの向上	①生徒が自己肯定感を高め、自身の気付きによる向上心が育まれている。	2.8	3.1	B	・生徒の特性に応じた指導を心がけているが、生徒に自己肯定感・向上心を持たせることが出来ている実感は感じにくいためスキルをさらに磨く ・今後も日常的に意識して支援していく。
			②自立する成年に向けた自己管理能力と規範意識を育む行動支援	②校則見直しの取組が生徒の規範意識向上につながっている。	2.7	2.8	B	・校則見直しについて全校生徒と情報共有する時間を設け、外部の方などの意見を集約した内容を基盤に、現在取組中である ・全体的に校則見直しの意見はいろいろな考え方が良いところも悪ところもあり様々意識は高い。ただ、それぞれの考え方の基準が違う為一つにまとめるのが難しい ・3年生に関しては、自分のことと捉える指導が出来なかった。 ・全生徒ではないが規範意識の向上につながっている生徒は多いと感じる。
			③命の大切さや多様性を尊重する態度の育成と「いじめ見直しゼロ」を目指す組織的な対応	③命の大切さや多様性を尊重する態度の育成と「いじめやトラブルを見逃さない、組織的な対応ができています。	2.9	2.9	B	・いじめ対策委員会、サポート委員会を中心にいじめなどのトラブル解消に取り組んでいる。今後も継続して組織的な対応を行う ・常に生徒と会話を増やし情報収集する心掛ける ・対応にあたる人員が不足している。組織的な対応を取るためにも一定数の教職員やアドバイザーなどが必要である。 ・来年度も「命」に関わる講演は依頼していきたい。 ・教職員間の報連相を欠かさず行う
			④特別活動による達成感の獲得や自己有用感の向上と、地域の活動への自主的な参加の推奨	④各行事、生徒会活動等の目的、資質・能力評価規準を生徒が理解し、振り返り得られる達成感や自己有用感が、自主的な地域への活動参加につながっている。	2.8	3.2	B	・各種行事・生徒会活動が縮小する傾向が続くが、特別活動から得ることが出来る達成感を生徒にとっても有益なものであることから、計画段階から多くの意見を取り入れて内容を整えていく ・探究を含めて地域との関わる企画が多く取り入れてある学校だと思ふ。全体的に生徒が主体的に動くまで行っていないのが現状。まだまだ、時間がかかりますが成功体験を増やし、生徒の口からやる意義を高める ・ある程度達成できてはいるが、充分に行うためには相応数の教職員が必要である。 ・後期から評価規準を生徒にわかりやすい表現にして示したことで指導と評価の一体化につながった。

健康・安全指導	○心身の健康の保持増進と、自他の健康安全に貢献できる態度の育成	①生徒の健康管理意識の向上と、SCと連携した教育相談の実践	①自身による健康管理の大切さを生徒が理解し、SCの活用など、安心して相談できる環境を提供できている。	3.0	2.9	B	・教育相談週間は来年度以降も続けていく。SCの活用は担当者によって連携方法の違いはあるが本校にとって大切な生徒を支える事業なので多くの生徒にアナウンスしていく ・SCとの面談やおたより等で意識の向上が見られた。
		②清掃活動や環境整備の取組による学校生活・学習環境の美化と地域の環境保全意識の高揚	②教室等の校舎、及び通学路等の美化に努める態度が育まれている。	2.9	2.6	B	・全校集会や学年集会などを開いて環境整備（器物破損など）について話をしたが、残念ながら無くならなかった。継続して注意喚起していく ・対話を大切にしながら美化活動につとめる ・今後も清掃指導を丁寧に行う。
		③校外の講師等を積極的に活用した薬物乱用防止やネットトラブル防止、交通安全等の指導	③ 外部講師を積極的な活用が、生徒の安全意識向上につながっている。	3.2	3.3	B	・今年度、交通安全講話・性教育講話で新しい取り組みを行ったが、好評であった。校則検討でも外部講師の講話を考えているため、積極的に活用できている ・いろいろなテーマが定期的に行われ充実していると思う ・来年度も「命」に関わる講演は依頼していきたい。 ・専門家の声は生徒の心に直接響くので効果的である。
組織運営	○スクールミッション、重点目標、育成を目指す資質能力を意識した教育実践	①「チーム学校」として課題の共有と解決に向けた協働	①質の高い報・連・相に努め、主体的に組織力向上に貢献できている。	3.2	2.9	B	・職員室の中での課題共有は向上していると感じる。今後は個々が主体的な意見、行動を意識して実践することで組織力向上に繋がる ・常に共通の情報が入ってくるのでチーム学校として確立されている。ただ、担当に任せきりにもなっているため互いに声を掛け合う必要がある ・改善を要する事態のときにより早急な報連相に努める必要がある。
		②各教育活動の目的の明確化と資質・能力の評価規準の実効化	②各教育活動において評価規準に基づき評価を行い、改善につなげている。	3.0	2.9	B	・ルーブリックを効果的に活用した。
		③ミドルリーダーを中心とした組織的な業務の遂行	③部長主任等のミドルリーダーを中心として、組織的に業務を遂行できている。	3.2	3.3	A	・各リーダーは組織をしっかりコントロールできていると思う ・分掌が抱える業務をさらにシャイプアップしていく。 ・少人数の良さを生かして今後も組織的に業務を遂行する。
信頼される学校づくり	○学校と地域が一体となった教育活動の推進	①学校運営協議会をはじめとする地域の関係機関との連携を深め、魅力ある学校づくりの推進	①保護者や地域、小中学校等と連携した教育活動を進めている。	3.1	3.3	B	・外部との連携事業が増えたと感じている。今後も保護者・地域との連携を行って欲しい ・色々な行事を通して地域や各機関との連携が出来る ・連携を進めることができた。
		②本校の取組の積極的な情報発信	②「すべての教職員が情報発信者である」との認識のもと、声高だより作成やHP更新などの情報発信を行っている。	2.9	3.4	B	・各担当、部署がしっかり発信できている学校だと思う ・情報発信が遅いので、リアルタイムで更新・発信する。 ・適宜情報発信を継続する
教職員の資質向上	○教育公務員としての自覚と働き方改革の推進	①教育公務員としての服務規律の遵守	①服務規律を遵守する行動を取っている。	3.7	3.7	A	・常に自覚を持ち行動する
		②業務の効率化による在校時間の縮減と、心身の健康保持増進及びライフワークバランスの実現	②自己の勤務時間を意識するとともに、教育に対する情熱、やりがいを見失うことなく時間外勤務の縮減に取り組んでいる。	3.2	2.9	B	・計画的に取り組み無駄な時間を各自負を付ける ・いっそうの業務効率化を必要とする。よりよい学校を作るためによりよい職場環境が必要とされる。 ・個人で抱えることなく周囲と協力をして、計画的かつ効率的に作業を行ってきたい。 ・さらにZOOM等での研修を義務化していく。

※「自己評価」は、「4:目標を十分に上回って達成した 3:目標を達成した 2:目標を達成できなかった 1:目標に向けて取り組みなかった」から選択してください。

※各項目、「改善・充実の方策」等がありましたら記入ください。

学校評価データ提出先は、SDラ→17学校評価にあります。

※ファイル名(氏名●●●●)部分に記名し、1月9日(金)までに提出してください。